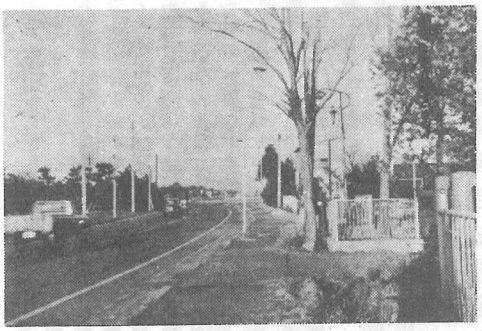
十年一昔（その二）

＝役場前界隈＝

「汽車からは良く見えるが、表通りから行くと判らなくなってしまう。横芝町役場の建物は不思議である。」

十年程前にはよくそんな話を聞きました。合併して新らしい横芝町が誕生し、庁舎も新らしくなりましたが、役場前の道路は小型自動車が辛うじて走れる程の細い路でした。その路は松尾の琴平様の境内をぐるりと廻って国道につながっていたのです。役場前通りとは言っても裏通りみたいなもので、自動車は殆んど通らずエンジンの音といえばオートバイ位のものでした。



「役場前をバイパスが通る」

春になって桜の花が咲く頃になりますと、念仏講の人々がよく忠魂碑（写真右手石垣の中）の前に並んで御詠歌供養を行っているのを見かけたものです。すげ笠を冠り、白装束に手甲脚絆、首には輪袈裟という装いで鈴を振りながら無心に詠っている姿は昔の巡礼さんを偲ばせたものです。時にはこの人々が道路一ぱいに並んでしまうこともありましたが、通り掛りの人達は文句一つ言わず、中には立止って見物をしていく、と言った具合にまことに長閑なものでした。

「国道が琴平の境内を突切って役場前に来るそうだ、」

「今の国道は町道になる。」

そうした噂に好奇心と期待と危惧の念とをミックスさせながら何年か過ごした地域住民の前に、この噂が現実となって展開され始めました。役場前の細道には巾せましとブルドーザーが地響きを轟かせ始めた、と思う中に道巾は見る見る拡がり、舗装され、歩道が付けられ、歩道橋の架設、信号機の設置と目まぐるしい変化は、何時か一二六号バイパスを完成させ、あの長閑な御詠歌の話も昔語りに追いやられ、通過する自動車の数は毎分何台という激しい交通量を記録して、遂に県下交通事故多発地帯という有りがたくない仇名をつけられるような道路に変貌したのです。

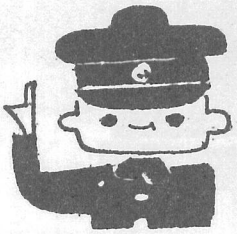
掲載の二枚の写真を比べて見て下さい。上の写真は今年の二月撮影のものです。前方の木立や森、それと右手に見える忠魂碑の石垣等には当時の姿が見出せても、完全に舗装された道路や駐車禁止の標識、自動車の縦列等を眺めた時、そこにはあの長閑な御詠歌風景を想像する何物も見出せないと思います。下の写真は十年前のもので、前方には赤ちゃんを背負ったお母さん達が道いっぱいに横に並んで歩いていますし、手前のおばさんも道路の真中を歩いています。それでも文句を言う人も無く、危険でもなかったのです。今、駐車禁止の標識の建っている附近には〝心配ごと相談所〟の案内表が建っています。勿論歪屋根で有名な旧庁舎も建っていた筈ですし、自動車の排気ガスを浴びることもなかったのです。

十年一昔、「十年の歳月はこんなにも世の中のたたずまいを変えるものか？」とつくづく感じます。

来月から一年生

保護者の皆様にお願い

＝入学までに　こんなしつけを＝



「Aさん宅のS雄さんはもうお父さんやお母さんの名前までちゃんと書けるのに、うちのT夫はようやく自分の名前しか書けない」。

「B子さん宅のU子さんは七百も、八百も勘定が出来るのに、うちのT夫は二十までしか数えられない」。

「Cさん宅のV子さんは上手に図画を書くが、うちのT夫はだめだ、こんなことで小学校に入って大丈夫かしら」

四月に入学をするお子さんを持たれるお宅の皆様は、お子さんの成長の喜びと同時にきっとこんな不安や心配事をしておられると思います。

また、お子さん方は、「もう幾つねると学校に行くのだ」という夢の中にも、まだ見ない世界の希望と不安に、小さな胸を痛めているのではないかと思います。

学校というと、どうしても学習面の心配が多いようですが、各小学校の先生方はむしろしつけの面をお願いしたいと言っております。

例えば

○　自分の名前をひらがなで読み書きが出来て、きかれたら「はっきりこたえ」、呼ばれたら「ハイ」と大きな声で返事が出来る子。

○　時間をきちんと守る子。

○　ハンカチ、チリ紙はかならず持ち、洗面、手洗、うがいの習慣と自分の身仕度は自分でできる子。

○　誰とでも仲よく遊び、食物も好き嫌いがない子。

○　他人の話をすなおに聞いて、イタズラ等もやさしい注意でなおす子。

○　用便は朝のうちにすませて、時間までに家を出られる子。

それから特にお願いしたいことは、

○　時間までには必らず家を出られるように起きる。そして仕度をするようにして下さい。

○　持物には必らず名前をつけさせてください。

○　身体の悪いところは入学前に必ずなおしてやって下さい。

○　通学道路は何回か一諸に歩いて、正しい安全な歩き方や、信号機の見方、歩道橋の渡り方を教えてやって下さい。

これだけ出来れば立派な小学生だということです。どうか学習面では余り神経質にならずのびのびとした明るい、自主性のあるお子さんに躾けて入学式をむかえられますよう、お願いします。